事案名	都城市の事案（宮崎県 平成16年度新規事案）
平成16年度及び平成17年度に得られた資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍毒ガス弾等全国調査フォローアップ調査について（報告）」〔1〕 ・証言（1の証言記録と同じ住民）〔2〕 ・『21世紀へ伝える航空ストーリー 戦前戦後の飛行場・空港 総ざらえ』〔3〕
資料内容概要	<p>終戦後に、都城市において軍医が液体入りの不審瓶を埋設している光景を目撃したとの証言情報がある。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度に住民から得られた証言情報として、昭和20年の終戦後、旧軍の軍医が同住民の自宅の裏山付近において、7分程度まで液体が入った直径70～80cm程のガラス瓶を、下に石灰を敷き、約1.5～2m程の深さに埋設しているのを目撃した。何を埋めているのか質問するとその軍医は、毒ガスを埋めていると答えた、と記されている。また、同住民は、自宅付近に旧軍の診療所や食料倉庫、都城飛行場があった。診療所の裏山に木が茂っており、その辺りに埋設したと思われると証言したと記されている〔1〕。 ・平成17年度に証言者に再聴取したところ、昭和19年に、30歳前後くらいの軍医少尉が医療室として使用していた民家の土間に不審瓶（1個）が置かれているのを初めて目撃し、この民家には40～50歳くらいの広島から来たという医師が出入りしており、瓶の中身について尋ねたところ、毒ガスが入っていると言われた記憶があると証言している。また、終戦直後医療室の側の平地で兵士2名がスコップで深さ約1m40cmの穴を掘り、穴の底に白い粉のようなものをいっぱい撒いてから瓶を穴に入れ、埋設している光景を目撃した。そこに、前述の医師が立ち会っていたので、瓶について質問をしたところ、毒ガスを埋めていると言われた。瓶（高さ約40cm、幅は約35cmくらいの一斗瓶様）の色は緑色で、中の液体は透明だと思う、白い粉の正体については医師に聞いておらず、石灰だろうと自分で推測した、と証言している〔2〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦時中、都城市には、都城東海軍航空基地と都城西陸軍飛行場が存在していたと記されている〔3〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から得られた証言情報として、埋設された数年後に、埋設地点付近の木を切り、住宅が建てられたが、その際幹を伐

	<p>採したのか、根まで掘り返したのかは不明である。その時は、異臭騒ぎ等は起こらなかった。現在は、住宅は移設され、不審瓶が埋設されたと思われる場所付近には塀が存在していると記されている〔1〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審瓶の埋設情報に係る土地の所有者によれば、昭和31年に土地所有者の兄が不審瓶の埋設情報を伝え聞き、気になって該当する可能性のある地点を掘削したが、不審物は発見されなかった。また、2年前に住宅を建て直した際に杉を切り倒して根を除去したり、水道管を敷設する等の工事を行ったが、不審物は確認されなかったとも証言している〔2〕。
<p>環境調査の結果</p>	<p>地下水・大気（表層ガス）・土壌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度に、不審瓶の埋設場所の周辺において15地点の地下水調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった。また、不審瓶の埋設情報に係る場所において1地点の表層ガス調査及び15地点（5検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料3-1の「別表B/C事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。